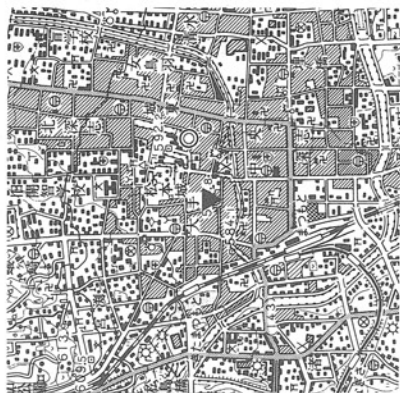


長野・松本城三の丸跡土居尻
まつもとじょうさん まるあとどいじり

- 1 所在地 長野県松本市大手二丁目・三丁目
- 2 調査期間 第一次調査 一九九一年(平3) 四月～七月
- 3 発掘機関 松本市教育委員会
- 4 調査担当者 竹内靖長・伊丹早苗
- 5 遺跡の種類 城下町(武家屋敷)
- 6 遺跡の年代 一六世紀～一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(松本)

調査地は松本市のほぼ中央、松本城天守閣の南約五〇〇mに位置し、三の丸土居尻地区にあたる。標高は五八七m前後で、西側に緩く傾斜している。この一帯は、女鳥羽川が形成した扇状地の扇端にあたり、湧水に富んだ地域である。調査地点は、三の丸南西隅に近い場所で、中～上級武士の居住していた武家屋敷にあたる。調査では、一六世紀後半～二〇世紀にかけての

人為的な整地層を四層確認した。各検出面の時期は、第一検出面(以下、「一検」と略記)：一九世紀後半～二〇世紀、二検：一八世紀後半～一九世紀、三検：一七世紀後半～一八世紀前半、四検：一六世紀後半～一七世紀前半と考えられる。なお遺物整理作業を終えておらず、この年代はあくまで現場調査時の所見である。

調査の結果、井戸・水道(木樋・竹管)遺構を良好な状態で検出した。遺物も木製品の遺存状況が良く、約五四〇点の出土量を得た。このうち木簡は、水道遺構や屋敷裏側の土坑などから一六点出土した。

8 木簡の釈文・内容

第四号竹管(三検)

- (1) 「弘化三丙午年
九月十日 下□孫□」(竹管継ぎ手) 370×155×153 061
 - (2) 「」(竹管継ぎ手) 119×183×108 061
 - (3) 「」(竹管継ぎ手) 240×59×125 061
- 包含層(二検)
- (4) 「。安政五戊午年
。安 八月四日 □□」(刷毛) 134×114×4 061
- 野宇

土坑四三一 (三棧)

包含層 (三棧)

(5) 「。人足壹人」

121×94×10 021

(10) []

228×26×6 051

土坑四一六 (三棧)

池状遺構 (三棧)

(6) 「 カタ 。

(11) []

163×37×7 051

。(下駄)

(12) []

174×37×6 051

。]

227×92×87 061

包含層 (四棧)

井戸三〇九埋土 (三棧)

(13) 「進上

(7) 「能勢覺 [兵衛力]

油荏入升」 (曲物蓋)

径112×厚4 061

木樋三〇一掘形 (三棧)

土坑五八九 (四棧)

(8) ・「V手代 [] 門」

(14) ・「宮 [] 右衛門行」 [鳥豐力]

・「V [] []」

176×33×5 032

・「 [] []」

160×30×9 051

土坑三〇六 (三棧)

土坑五九七 (四棧)

(9) 「松 (焼印)

[] []

180×39×9 015

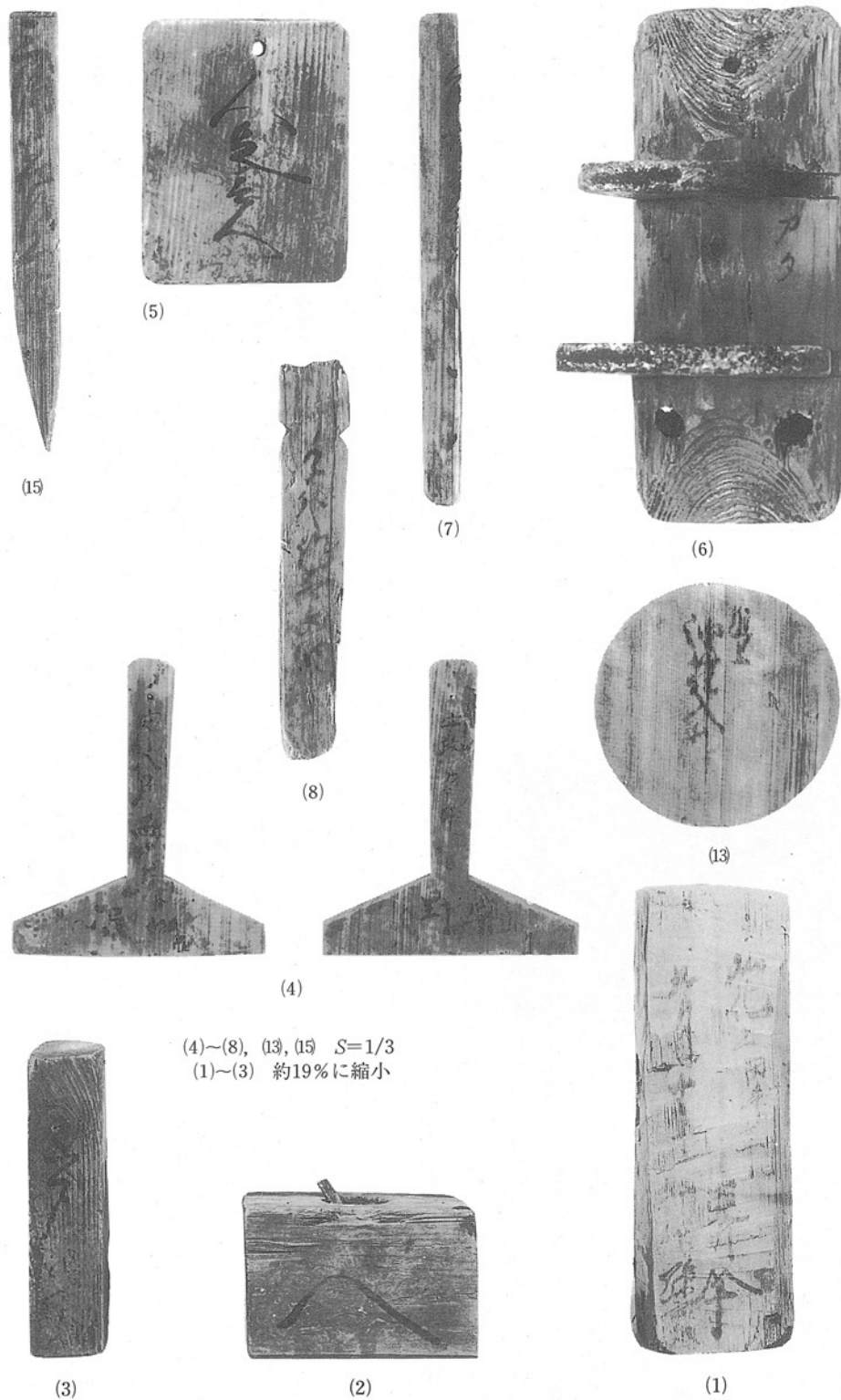
(15) 「三浦喜左衛門」

196×22×4 051

土坑五七九 (四棧)

(16) [] [定力] (曲物蓋)

径(143)×厚4 061



(1) (3)は、上水道として敷設された竹管の継ぎ手に書かれたものである。(1)の弘化三年(一八四六)は丙午年であり、火災が多いという迷信があるため、この年に上水道を敷設したということも意味があるかもしれない。

(4)は木製の刷毛で、安政五戊午年という年号と宇野という人名が書かれている。嘉永七年(一八五四)の松本城下の絵図より、調査地と考えられる場所に宇野伝右衛門という武士が居住していたことがわかっており、考古資料と絵図が一致した好資料となった。

(7)(15)は荷札と考えられ、ともに人名が書かれている。享保一三年(一七二八)の絵図によれば、調査地から北へ二軒目に能勢覚兵衛という人物が住んでおり、(7)にみえる人物との関連が予想される。

(15)についても、宝永四年(一七〇七)に作成された水野家中録に同名人名が載っている。

(13)は曲物の蓋に書かれてあったもので、(13)は荏胡麻からとった油が入っていたものと考えられる。

9 関係文献

松本市教育委員会『松本城三の丸跡―土居尻武家屋敷跡の発掘調査概報―』(一九九二年)

松本市『松本市史 第二巻 歴史編Ⅱ』(一九九五年)

(竹内靖長)

長野・松本城下町跡伊勢町

1 所在地 長野県松本中央二丁目

2 調査期間 第一次調査 一九九五年(平7)二月―三月

3 発掘機関 松本市教育委員会

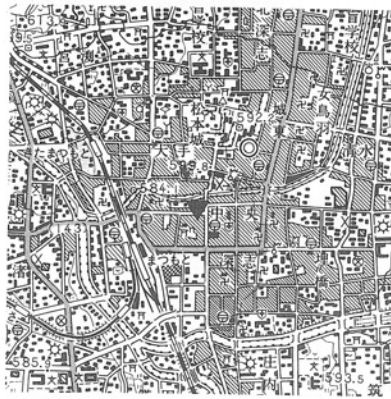
4 調査担当者 竹内靖長・村田昇司

5 遺跡の種類 城下町(町屋跡)

6 遺跡の年代 一六世紀―一九世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

松本城は一六世紀末頃に武田氏が信濃侵攻の要所としていた深志城を基礎として、小笠原貞慶や豊臣系大名の石川数正・康長父子に



(松本)

より天守閣の築城や城下町の整備がなされた。調査地の伊勢町は、三の丸の外側に位置する一三の町人町の一つで、安曇平に向かう城下町の西側の要所として位置付けられる。伊勢町は、東西四七五m、南北六三―八四mで、東西に通る街道